

令和2年7月豪雨特集



消防団長 杉野和則



新年あけましておめでとうございます。
消防団員としてご家族の皆様におかれましては、健康にお迎えのこととお喜び申し上げます。
また、平素より消防団の活動につきまして、深いご理解とご協力を賜り、

厚くお礼を申し上げます。
昨年は新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、感染対策を講じながら消防団活動を行ってまいりましたが、感染予防の観点から事業等の中止や規模を縮小しての活動となり、大変なご苦労をおかけいたしました。
さらに、昨年7月6日にはこれまでに想像もできないほどの未曾有の大災害に見舞われました。この災害により、犠牲になられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災されたすべての

皆様にお見舞い申し上げます。
今後は私たち消防団員も、地域住民の一員として、それぞれの地域の一日も早い復旧・復興へ、尽力してまいります。
この災害において、我々消防団員も何が起こっているのか分からないまま被害状況の把握や、住民の皆様の避難誘導に当たっていました。
今回のように太くんだよりでは、7月6日午前中の大雨警報発令からの消防団の活動をご紹介しますとともに、今後の私たちの教訓にしていきたいと思います。
結びに、私たち消防団員は消防本部と一致協力し「署・団一致」の伝統精神のもと、市民の生命・身体・財産を守る使命を果たしながら活動してまいりたいです。
令和3年が市民の皆様にとって、平穏で健康な一年となりますことをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。
本年もどうぞよろしくお願いたします。

活動実績	数 値	被害状況	数 値
活動分団数	21分団	人的被害	1名（軽傷）
活動車両数	(延)133台	車両被害	5台
活動団員数	(延) 822人	格納庫被害	4棟
救出及び避難誘導人数	308人		

団、桑原氏と合流して付近の警戒、交通誘導を行っている。
玉川分団より1名応援可能と連絡が入り、格納庫に戻り消防車両にて出勤。
玉川2部までも道路冠水があり水没車両も数台ありました。
玉川2部山田氏と橋本橋まで行くも完全に道路冠水となり通行不能、玉川交差点を道路規制として玉川2部車両を配置して萩尾橋まで向かう。
下池周辺でも道路冠水が5センチ程度、萩尾公民館周辺は2台の冠水車両あり、萩尾交差点にて交通整理、目視でも萩尾橋手前まで冠水状況、2台の冠水車両があるため状況確認のため山田氏と胸下まで浸かった状態で現場確認して車両内には人が居ないため戻るときに2台の車両が冠水道路内に侵入して水没冠水となる。
1台は自力で窓より脱出。1台の軽トラックは窓が開かないため車両を手押しして安全な場所まで移動させる。その後も

天領分団

長靴を履いていた為長靴の中に水が入ってきた救助現場にたどり着くまで長距離歩くのに苦労した。
また、活動服では水に浸かっていたのは大変である。
鷹口を持って行ったのは良かったが、救助の際には邪魔になり扱いに苦労した。
署員が30分後に到着のことだった、なかなか来られなかったのでは



んぶして運んだ。
屋内にて救助活動中、畳が浮き上がってきた救助に苦労した。
寝たきりの要救助者の扱いに苦労した（知識、経験がない）。
要救助者で要介護者を介しても何もできない（避難所には支援者がいないので連れていけない）。
（情報の提供や避難所での指示等）

羽山台分団 班長 早田宗則

この度の豪雨災害に際し、心よりお見舞い申し上げます。
私の取引先の自宅が被災し、お手伝いのお声をかけさせて頂きました。涙を流され、感謝された事が非常に申し訳なさを感じました。
仲間と共に片付け作業のお手伝いをさせて頂きました。周囲の自宅にもたくさんボランティアの姿がありました。
消防団員として何ができるのか、地域住民の一人として何ができるのかを深く考えた時に、今後

大正分団 部長 蓮尾圭一

水害に対する経験・知識が乏しく実際現場に出動したときは身の危険も感じた。
水害時の装備の拡充
本部から各分団への情報共有
今後の水害に対する講習・訓練
消防団に対して、水防のガイドラインの作成のお願い
避難広報の時、公民館等の青パトの協力をお願い
ハザードマップに載っ

編集後記

今回は、昨年の豪雨災害時の消防団員の活動を紹介しました。
今後も消防団員の活動を広く紹介してまいります。

の大牟田の将来を考えると、高齢化が益々進む中で、大切な事は、誰一人孤立させない事だと思えます。
地元の消防団が地域のコミュニティの役割を果たし、普段からの声掛け運動を展開することによって、有事の際に力を発揮するのではないのでしょうか。
最後に豪雨災害に携わられた全ての方々に心より敬意を表します。

ていない不知火交差点（セブンイレブンと文化会館地点）一帯が太ももまで（約50〜60cm）浸水していた。今回の豪雨もマップに反映させてほしい。
校区内で冠水した格納庫については、予備の集合場所を設けたほうがよいのではないだろうか。
冠水する箇所での避難広報の時間は適切であったのか。
できるだけ、冠水する前に自分で避難していた、最終手段としてボート等での救出とした方が救助要請の件数が減らすことができると思います。
救助要請があった時に、救助者に周辺の住民に声をかけて助けてもらえない状況が聞いてみて、救助してもらえない状況であれば早い解決になるのではないだろうか。

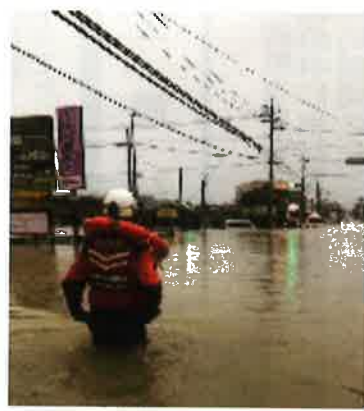
消防団員の声

駿馬分団 分団長
武田 一憲

夕方6時ごろ唐船から、手鎌、大黒町、明治町の道路冠水した道を歩き、大正町へ。
諏訪橋先の汐屋町付近からは胸近くまで冠水の為、諏訪橋から天領町、八江町交差点から右京町へ歩き、やっと冠水した道路から脱出。
約3時間歩き無事に自宅へたどり着く。
風呂と食事を済ませて消防団活動に出る。

倉水分団 団員
泉 英明

消防団は自分の仕事を
持っていて、そのうえで
火災や水害などの対応に
当たらなければなりません。
です。日中活動で
ける人数は圧倒的に限ら
れています。
今回の豪雨についても
昼前から出動し、避難に
ついでに広報、警戒に当
たりました。



住民の救助に向かう団員

そして予想もできない
ような災害になってしま
いました。
こういう時は自分の仕
事がある、なんて言えな
い。そんな気持ちで出動
します。
そんな気持ちで活動し
ているのですが、問題点
がいくつも見えてしまし
た。
ここ数年で支給され配

備された無線機による連
絡、情報共有は目を見張
る活用をされていると思
います。
ただ電波到達が短く、
聞き取りにくい、使用者
の無線機取り扱いの未熟
さ、配備の台数が少ない
などの問題点が浮き彫り
になりました。
台数さえ多ければ取り
扱う機会も増え習熟度は

高取分団とともに、老
人介護施設から5、6名
の車椅子の老人を避難誘
導したが、たまたま避難
所が近かったこともあり
そのまま車椅子を押して

平原分団 副分団長
菊池 和弘

最後に、今
回の豪雨災害
で死亡した
2名の方の
ご冥福をお祈
りし、また被
災された皆
様の一刻も
早い復興を心
より祈念申し上げます。

上がります。
また、中継をすること
で伝達距離を延ばすこと
もできます。
もう一つ、今回の大雨
は夜まで続き雨具や夜間
時の照明も足りない状態
でした。
市の財政も厳しく予算
がないというのは重々承
知しておりますが、消防
団員の現状を知っていた
だき、救命胴衣等の装備
を充実し、災害に強い大
牟田市を目指していきた
い。

上内分団 副分団長
西山 博信

高齢者の方から声かけ
や広報活動は安心すると
言われ、よろこんでもら
えました。

上内分団 副分団長
境 紀三宏

本部より広報活動の指
示があった時点で、周辺
の河川は氾濫危険水位に
達しており、危険箇所の
警戒・避難の声掛け・避
難場所への誘導にあたっ
た。

同じ市内でも地形や住
民の年齢層が異なる為、
その校区にあった対応が
必要だ。

広報活動の際はゆっく
り走行し、駐車スペース
がある所は車を止めて広
報をしているが、ほとん
どの家庭が雨戸を閉めて
いるので内容が聞き取り
にくい。
もしくはまったく聞こ
えないと指摘有り。多く

の住民から広報活動を認
識してもらえず、かえつ
て不安な気持ちにさせて
いた。
事例として、豪雨の中、
河川に近い所に住んでい
る一人暮らしの高齢者宅
へ救助に行き、積載車に
乗せる際、ステップが細
く車に乗せるだけでも時
間がかかり、降りる際も
とても危険だった。
吉ヶ浦堤を巡回する時
に使う道は、豪雨時には
毎回崖崩れが起き見に行
くまでも危険。
携帯電話の電波も入ら
ないので、随時水位を確
認できるように監視カメ
ラを設置することはでき
ないのだろうか。
大雨予報が発令された
場合、米農家は井関を開
けるよう指導されていた
のだろうか。
前日に開けておけばも
う少し被害を抑えられた
のではないかと思います。
公民館・自治会・民生
委員等と連携し、一人暮
らしの高齢者や高齢者だ
けの家庭の避難状況を把
握してくれると声かけや
避難誘導にかかる時間を
警戒や突発的な事態に瞬
時に対応する事ができる
のではないだろうか。

天の原分団 分団長
柿原 和彦

当日は熊本出張で熊本
市を出たあたりより豪雨、
浸水の状況連絡が職場よ
り入りました。
玉名付近では前が見え
ないくらいの豪雨となり、
荒尾付近で冠水、道路通
行制限などのメールが届
きだし、岩本橋付近では
田んぼの冠水、道路は15
センチほどの冠水となっ
ていました。

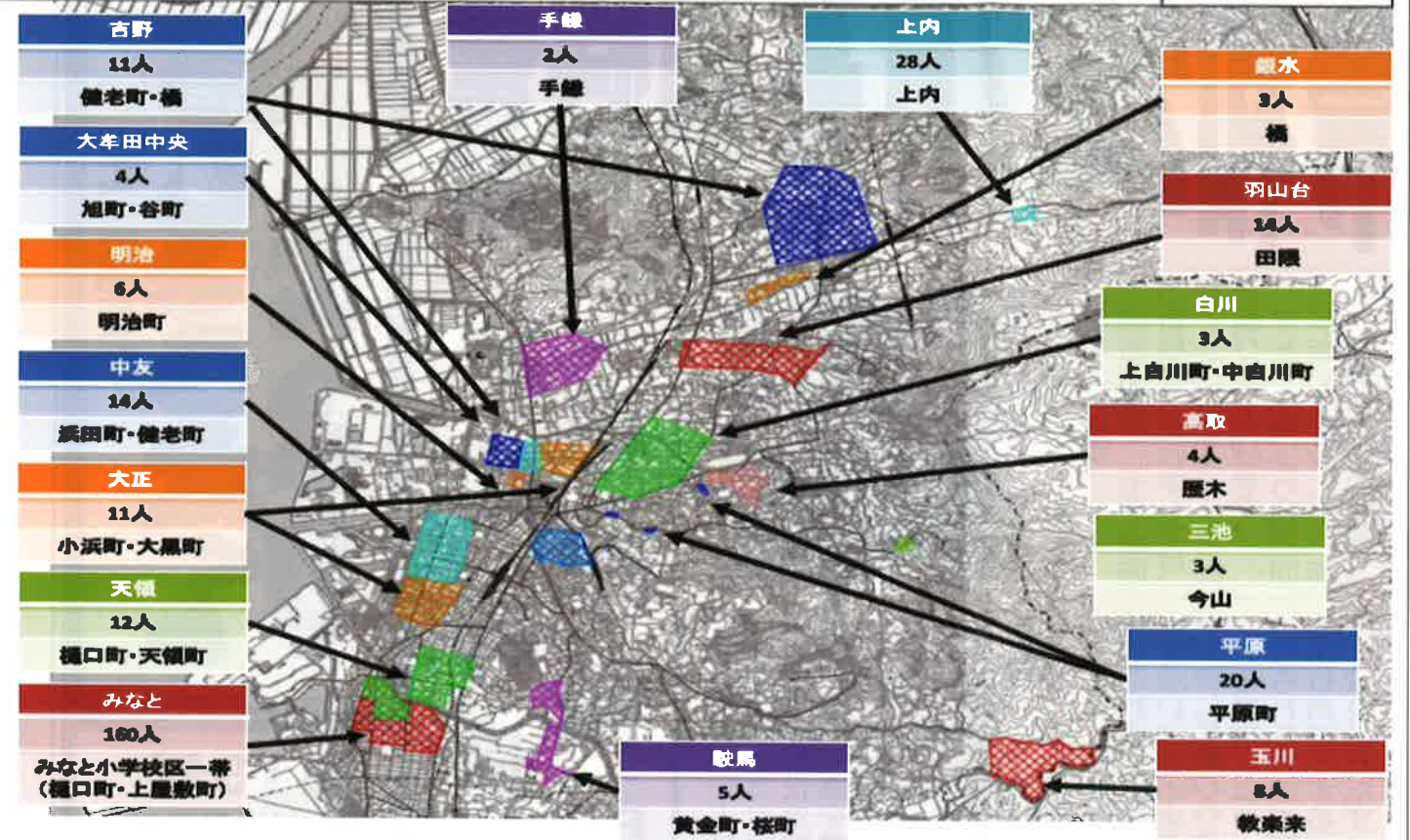
市内国道は通行止めと
メールが届いたため、一
旦家に帰りましたが萩尾
公民館付近より道路冠水
と今までに経験したこと
が無いくらいの水量です。
活動服等を準備の上先
ずは格納庫に向かいまし
た。

格納庫付近は高台のた
め冠水被害は無く、他団
員は職場が避難状況のた
め活動参加は出来ない
との事でした。

消防車両は1名のため
出せずに、自家用車にて
周辺を警戒、合成年、ヤ
マト運輸付近でも道路冠
水で多数の車両が通行止
めとなっていました。
上官交差点にて中央分
(4面へ続く)

【各分団の救出・避難誘導等人員】

合計308人



活動内容

【主な動き】 ※詳細は別紙 資料①参照

- 〇7月 6日 13時30分より、避難所開設に伴う広報実施
14時00分より、広報及び警戒巡視による被害状況調査
16時00分より、警戒巡視、河川監視、水位調査、避難誘導、安否確認
- 〇7月 7日 6時00分より、警戒巡視(冠水、土砂崩れ調査)、避難誘導(救助活動含)
油漏れ処理、ガスボンベ漏えい対応、安否確認
22時30分より、警戒巡視(道路冠水調査)、河川監視、水位調査
- 〇7月 9日 14時50分より、避難所開設広報(市内全域)
- 〇7月10日 14時00分より、避難所開設広報及び警戒巡視(道路冠水調査等)
- 〇7月11日 19時00分より、警戒巡視(道路冠水調査等)

【活動実績】 R2.7.20現在 ※詳細は別紙 資料②参照

〇避難誘導(救助含む)人数 **308名** (消防本部依頼 80名、現場依頼 228名)

【被害状況報告】 画像、位置情報34件 ※詳細は別紙 資料③参照

被害状況

【人的被害】 〇団員:1名(軽傷)

【物的被害】 〇車両:5台(4台水没、1台タイヤパンク)

- ・消防ポンプ自動車CD-1 3台(みなと1部、高取1部、明治)・・・運用不可
- ・消防普通積載車 1台(みなと2部)・・・運用不可
- ・消防軽自動積載車 1台(吉野1部)・・・運用可(スペアタイヤ交換)

〇格納庫:4棟

- ・床上浸水:2棟(みなと1部格納庫、明治分団格納庫)
- ・浸水(車庫等):2棟(みなと2部格納庫、天領分団格納庫)